



FAX: 横浜市大センター病院薬剤部 045-253-5343

保険薬局→薬剤部/化学療法支援室→主治医

横浜市立大学附属市民総合医療センター 御中

報告日: 年 月 日

## 抗がん剤薬薬連携情報共有シート

患者ID:	年齢:	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	保険薬局名:
患者イニシャル:	診療科:		TEL:
この情報を伝えることに対して患者の同意を <input type="checkbox"/> 得た <input type="checkbox"/> 得ていない			FAX:
<input type="checkbox"/> 主治医への報告を拒否しているが、治療上重要だと思われるため報告する			担当薬剤師:
治療レジメン名:			

### 【副作用の発現状況】

症状	無	有	Grade	症状の詳細
食欲不振	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
体重減少	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
悪心、吐き気	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
嘔吐	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
口腔粘膜炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
下痢	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
便秘	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
末梢神経障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
倦怠感	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
疲労	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
手足症候群	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

その他の症状・症状の詳細 等:

薬剤師としての提案事項・その他の報告事項:

本レポートに対する電話による返信を希望されますか?  はい  いいえ

<注意> FAXによる情報伝達は、疑義照会ではありません。  
 緊急性のあるものは通常通り電話にてお願いいたします。  
 本レポートに対する電話による返信を希望されない場合でも、薬剤部より連絡を差し上げることがあります。  
 副作用のグレード評価に関する院内指標は薬剤部HPに掲載してあります。ご活用ください。  
 その他、化学療法全般に関する情報提供やご質問などもお気軽にお電話ください。

横浜市立大学附属市民総合医療センター 薬剤部  
 化学療法支援室相談窓口 TEL: 045-253-5740

薬剤部使用欄:  コピー  スキャンセンター  FAX  電話  担当:

<参考>

身体状況からわかる副作用の重症度分類 (市大センター病院 ver.)

副作用項目	副作用の重症度		
	Grade 1 (軽度)	Grade 2 (中等度)	Grade 3 (重度)
食欲不振	食欲は落ちたが食生活に変化なし	体重減少・栄養失調を伴わない摂取量減少、経口栄養剤による補充が必要	顕著な体重減少 or 栄養失調を伴う経管栄養/点滴加療を要する
体重減少	ベースラインより5-10%の減少 治療は要さない	ベースラインより10-20%の減少 栄養補給が必要	ベースラインより≥20%の減少 経管栄養/点滴加療を要する
悪心	吐き気あり、食生活は変化なし	吐き気あり、体重減少・栄養失調・脱水を伴わない食事量の減少	吐き気あり、食事・水分が殆どとれない 経管栄養/点滴加療/入院を要する
嘔吐	治療を要さない	外来での点滴加療を要する ；内科的治療を要する	経管栄養/点滴加療/入院を要する
口腔粘膜炎	症状がない or 軽度の症状 食事の変更はない	経口摂取はできるが、痛み・潰瘍あり 食事の変更が必要	強い痛み 経口摂取できない
下痢	通常回数+3回以内の増加	通常回数+4-6回の増加	通常回数+7回以上の増加
下痢 (ストマ)	ベースラインより排泄量の軽度増加	ベースラインより排泄量の中程度増加 身の回り以外のことに影響あり	ベースラインより排泄量の高程度増加 身の回りのことができない
便秘	不定期 or 間欠的な症状 下剤や食事の工夫が必要	定期的な下剤の使用、持続的な症状 身の回り以外のことに影響あり	下剤を使用しても便がでにくい 身の回りのことができない
末梢神経障害	違和感がある	中等度の症状 身の回り以外のことに影響あり	高度の症状 身の回りのことができない
倦怠感	だるさ or 元気がない	だるさ or 元気がない 身の回り以外のことに影響あり	だるさ or 元気がない 身の回りのことができない
疲労	休めば疲れがとれる	休んでも疲れがとれない 身の回り以外のことに影響あり	休んでも疲れがとれない 身の回りのこともできない
手足症候群	痛みのない皮膚の腫れ、赤み、 爪の変形・色素沈着、違和感	痛みのある皮膚の赤み・腫れ・ 水ぶくれ・出血・爪の著しい変形や脱落 身の回り以外のことに影響あり	強い痛みを伴う皮膚のはがれ・ 水ぶくれ・出血・ただれ・かさぶた 身の回りのことができない

Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver.5.0 を参考に一部改変

検査値からわかる副作用の重症度分類 (市大センター病院 ver.)

副作用項目	副作用の重症度			
	Grade 1 (軽度)	Grade 2 (中等度)	Grade 3 (重度)	Grade 4 (生命を脅かす)
白血球減少	/μL <3,300-3,000	<3,000-2,000	<2000-1000	<1,000
好中球数減少	/μL <2,000-1,500	<1,500-1,000	<1,000-500	<500
貧血	g/dL <13.8-10.0	<10.0-8.0	<8.0；輸血を要する	生命を脅かす ；緊急処置を要する
血小板減少	10 <sup>4</sup> /μL <18-7.5	<7.5-5.0	<5.0-2.5	<2.5
AST増加※	U/L >30-90	>90-150	>150-600	600<
ALT増加※	U/L (男) >42-126 (女) >23-69	(男) >126-210 (女) >69-115	(男) >210-840 (女) >115-460	(男) 840< (女) 460<
T-Bil増加※	mg/dL >1.5-2.25	>2.25-4.5	>4.5-15	15<
クレアチニン増加	mg/dL (男) >1.07-1.605 (女) >0.79-1.185	(男) >1.605-3.21 (女) >1.185-2.37	(男) >3.21-6.42 (女) >2.37-4.74	(男) 6.42< (女) 4.74<
高カリウム血症	mmol/L >4.8-5.5	>5.5-6.0	>6.0-7.0	7.0<
低カリウム血症	mmol/L <3.6-3.0 で症状がない	<3.6-3.0 で症状がある；治療を要する	<3.0-2.5 入院を要する	<2.5 生命を脅かす
高カルシウム血症 (補正値)	mg/dL >10.1-11.5	>11.5-12.5 症状がある	>12.5-13.5 入院を要する	13.5< 生命を脅かす
低カルシウム血症 (補正値)	mg/dL <8.8-8.0	<8.0-7.0 症状がある	<7.0-6.0 入院を要する	<6.0 生命を脅かす
低ナトリウム血症	mmol/L <138-130	125-129 症状がない	125-129で症状がある 120-124で症状の有無は不詳	<120 生命を脅かす
低マグネシウム血症	mmol/L <2.0-1.2	<1.2-0.9	<0.9-0.7	<0.7 生命を脅かす

※ ベースラインが異常値の場合、別途に規定あり。

Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver.5.0 を参考に一部改変

以下の患者さんに関しては必ず情報提供をお願いします

- \* 副作用症状がGrade2以上で、支持療法が実施されていない
- \* 用法用量が標準用量と異なる(理由が明らかなものは除く)
- \* アドヒアランスが不良
- \* 疼痛があるが鎮痛薬を使用していない、または疼痛コントロールが不十分  
→痛みと症状の薬薬連携共有シートにてご報告をお願いします。

